

# 整形外科外来だより

No 31 2018/10/1 けいゆう病院 整形外科 発行

## ◆人事異動のお知らせ◆

しばらく休刊状態でしたが、今回は 2 人の医師の異動があったのでお知らせ致します。まず 2018 年 4 月 1 日から東京の国際医療福祉大学三田病院から、卒後 25 年のベテラン医師石川雅之先生が転勤されました。詳しいことは当院のホームページで見てくださいなのですが、中高生に多い特発性側弯症を専門とする脊椎外科医です。とても優秀で、腕のよいドクターです。顔は少し怖いですが、優しい先生ですので、お孫さんやお子さんに側弯症の方がいらしたら気軽にご相談下さい。もう一人は 2 年間当院の股関節疾患を担当してくれた山本崇先生が 10 月 1 日から川崎市立井田病院に異動になりました。代わりに所沢にある防衛医科大学病院から大久保匡先生が赴任されました。専門は同じ股関節疾患です。はきはきとしたさわやかな先生です。研究熱心で、手術の腕もなかなかです。二人ともこれからよろしく願いいたします。

## ◆ヘルニコアの椎間板内投与を開始しました◆

腰痛、坐骨神経痛と言えば椎間板ヘルニアが代名詞の様なものです。比較的若い方に多い疾患ですが、最近は 70 歳台の患者さんもちらほら出てきています。高齢化による現象と思われがちですが、言い換えれば 70 歳が 50 歳、60 歳と同じ病気にかかるようになったとも言えます。つまり病気からみると「10 歳若返った！！」のかもしれませんが。片方の足が痛い坐骨神経痛が主な症状です。原因は腰の骨の間にある椎間板の一部が飛び出して神経に当たるからと言われていましたが、最近の研究では飛び出した椎間板から炎症性物質という痛みを起こすエキスが出て、これが神経に炎症を起こすので痛くなることが明らかになりました。今年の 8 月 1 日からこのエキスを中和して、神経の炎症を抑える薬としてヘルニコア（腰椎椎間板ヘルニア治療剤）が発売されました。当院でもこの薬を使い始めました。対象となるヘルニアは決まっていますので、椎間板ヘルニアなら何でもよいわけではありませんが、適応となる方では劇的に治る方もいます。当院の第 1 例の方は 6 ヶ月以上下肢痛で困っていましたが、投与翌日にはそれまでの痛みがすっかり取れ、普通に歩けるようになりました。始めたばかりですのでどれくらいの方に効くのかはまだまだ分かりませんが、少なくとも第 1 例の方は著効しました。従来の治療では治らない、手術もそろそろ考えなくてはいけないかな？と悩んでいる方々が最も適しています。椎間板の中に注射してヘルニアが出すこのエキスを中和することで手術を回避できるかもしれません。外来で、2 時間程度で行えます。お悩みの方は遠慮なく整形外科まで気軽にご相談下さい。(文責 鎌田修博)